

- ・知的障害が重度だから（盲ろう、5歳）

【Ⅱ問32 就学先を選択するにあたっての悩み】

- ・本人の発達が就学する時点でどこまで到達しているのか、全く未知だから（肢体不自由、4歳）
- ・どのような発達をするのかわからないから。（肢体不自由、11歳）
- ・通学時の送り、迎え、が毎日出きるか不安です（視覚障害、5歳）
- ・子供が、まわりの子達と自分が違うということに気づき悩みやしないかと。（視覚障害、6歳）
- ・通学が遠い、地域との交流がない（視覚障害、6歳）
- ・通学に不便（視覚障害、10歳）
- ・あまりにも教師の質が悪すぎる（重複障害、14歳）
- ・何もわからないから（重複障害、40歳）
- ・経済的理由（聴覚障害、5歳）
- ・医療ケアがあるため（内部障害、14歳）
- ・4歳なので、まだ、はっきり就学先を決定できず、いろいろな意味で揺れている（発達障害、4歳）
- ・アドバイスを頂いている先生方の意見が違うので（盲ろう、2歳）
- ・遠方のため通学するのが心配。重複障害なのでどの支援学校をえらぶべきか悩む（盲ろう、2歳）
- ・盲ろうだが、盲学校かろう学校のどちらでもカバーできないから（盲ろう、5歳）

【Ⅱ問33 就学先を選択するにあたって悩んでいない理由】

- ・方法が訪問教育しか考えられないから（その他、44歳）
- ・就学時はあたりまえに、知、身、精にかかわらず、とりあえず、学区の学校に入学した。（肢体不自由、60歳）
- ・高齢のため（肢体不自由、65歳）
- ・選択肢がそれ以外にないと思っている（視覚障害、3歳）
- ・共生社会を構築していくべきだと考えているから（視覚障害、73歳）
- ・理由はない（知的障害、13歳）
- ・自分が体験したことをそのままやればいいと思うから（難病、30歳）
- ・すでに決定しているから（発達障害、6歳）

2. 小学校段階における教育

【自由記述】

- ・〇〇県内を代表する特別支援学校で看護師が配置されているが、看護師が2名しかいないため、看護師が1名でも休む場合、医ケア対応の必要な子の保護者は呼び出されます。わりと頻繁なため、毎年毎年看護師の増員を求めているが、県の予算上難しいと言われていました。また、新入生で医療的ケアが必要なお子さんに関しては、手続き（学校側との面談・医師の

診察・書類上の審査などなど…)に非常に時間がかかり、決定するまで看護師が手を出すことができないため保護者がしばらく学校付添いが必要とされ、今年度は9月頃まで、昨年度は11月頃までとずいぶん長い間保護者も毎日学校で生活という状況でした。県を代表する特別支援学校にもかかわらず、こういった手続きがスムーズでないことに毎年毎年悩まされる保護者が最低でも1名はおります。入学が決定した時点でできること（例えば医師からの診断書等）がたくさんあるのに、入学後でないと対応してくれないことに困っています。(肢体不自由、7歳)

- ・障害を持っていることによって社会から疎外されないよう交流を持ってほしい。・将来社会の一員として自立して生活していけるような仕組みを作してほしい。・今後社会や会社側から必要とされる人材となるよう親としても教育していくつもりであるが現在障害を持つものにとって就職はとても困難である。施設に入るしか方法はなく月数千円のお金しかもらえない。これでは本人もやる気がなくなり能力があったとしても発揮できずいつまでたっても支援を受けての生活から脱出できない。社会全体で障害者であっても本人のやる気と能力を発揮できる場をつくってほしい。(肢体不自由、8歳)
- ・担任になった先生に、訓練を受けているところを見てほしい。(見学にきてほしい) ←いそがしいので無理と言われた。・一人に一人先生がついていたのが、入学した年から、7人の生徒を6人でみる様になった。(一人に一人ついてほしい) ←先生もいそがしそう。・高等部に入れるのか心配。(財政難なので) 子供を手厚く指導してくれる人が社会人になるといなくなってしまふ。・土、日、放課後庭やプールを開放してほしい。(卒業しても) ←今はまだいいが、体が大きくなると遊びに行くところがなくなってしまふ。(特にプール)・児童クラブを作してほしい。←仕事にも行けない。(肢体不自由、8歳)
- ・現在通う小学校では家庭と学校や医療機関が連携して有効な支援ができていると思っています。障害や病気についての理解もして頂き本人も喜んで通っています。保育所(公立)は『人』によってバラつきがすごくありました。特別支援教育についてあまりご存じない先生もおられます。『療育』に関わることを言うと、何かとても特別なことを言っているような受けとり方をする方もいれば、各々のニーズに合わせて熱心にして下さる方もあります。幼児から大きくなるまで一貫してスムーズに支援が受けられるようになることを望みます。現場の先生方にだけ負担がいく形でなく、支援体制が充実していくことを希望します。(肢体不自由、8歳)
- ・体だけの障害だけでないため、国語と算数のみ1対1の特別支援学級で行っているのですが、出来るなら他の子に追い付いて普通学級で教育を受けたいと思っています。(肢体不自由、8歳)
- ・土曜日が休みなので退屈しており、月2回くらいは土曜日にも授業をしてほしい。(肢体不自由、8歳)
- ・以前は親のつきそい条件で地域の小学校に通っていました。(小学校2年生まで通常学級に在籍し、3年生から特別支援学校小学部に転学しています。)母親の妊娠、出産、家庭状況により、近くの学校に行けなくなったのはさみしいです。現在の学校で交流学習は通学籍の子が対象となっているらしく、交流もできません。本人の健康上の理由で学校を変更したわけではないので、もっとケースをみて交流できるような体制になってほしいと思います。医療的ケア(うちは24時間人工呼吸器使用、吸引(口腔、気管)、胃ろうからの注入)が必要な

子の親に対してつきそいを条件とする学校が多い、ほとんどです。早急に条件を整えて、学校のつきそいがなくなることを希望します。(肢体不自由、9歳)

- ・幼児期から、重度の障害があっても、子供は子供社会の中で育つべきだと考えていました。それは、大人からだけでは与えられない特別な刺激・感性、子供ならではのやり取りがあつて、それが大人社会での生活のきまりを知っていく手掛かりになっていくと考えるからです。また、本人への良い影響だけでなく、他児へも、考え方や人間性を豊かにしたり、観察力を養ったり、役に立てる喜びを感じたり、内向的な子供が少しずつ前へ出て来たり…と、今の子供達に失われつつある教育が、障害児が、健常児の中で生活していくことで生まれてくることを、実感しています。現在、小学校の通常クラスに籍を置いています。本人が周囲の健常児を、知らず知らずに意識しているのでしょうか、言葉や身体的機能、心の著しい発達をみせていることに大変驚いています。これも、本人と周囲の健常児をうまく導いていける教師の知識・技術・指導力・人間性・全てがうまく機能している結果だと考えます。1番の良い所は、健常児も障害児も分け隔てなく、同じ目線・感覚で受け入れている所です。こういったバランスの整った教諭をどう育てていけるか、教諭の心のバリアフリーをどう築き上げられるか、が、まず課題になってくるのではないのでしょうか。その課題と向き合えるためにも、早急に教諭達が余力を出せるような、少しゆとりのあるような教育現場が出来るように環境を整えていく必要があるとも思います。障害には病気も、程度も、個々に違いがありますが、健常者と共に暮らす、本当の意味での社会生活を送るためにも、健常者をもっと育てる、健常者を育てるためには、幼児期から障害児と共に暮らす、そして双方に向上していける環境を整えることが重要だと切に思います。(肢体不自由、9歳)
- ・教室がだんだんせまくなってきています。在学生増加の為。また先生の異動の時期がとても早く専門性を学ぶだけの時間がない気がします。特別支援学校での先生異動の期間はもう少し長い方がよいのでは…盲ろう児はたくさんいるのに先生方は盲は盲、ろうはろう。どう接していったらいいのかまだどんな事が必要なのか知る術がない気が…。息子もあわい色使いの絵本をよみきかせていただいていた事がありますが、見えづらい聞こえづらい子に読みきかせは…。児童数と先生の数がなかなか充分でない為、待機時間に読み聞かせは何人かまとめて関わっていいのでしょうか、盲ろう児は眠たくなる時間となり…。いろいろな制限のあるなか一生懸命関わっていただいています。息子が息子らしく息子のペースで生きていける居場所がたくさんできるといいな…と想っています。(肢体不自由、10歳)
- ・現在小学5年生で、前校長は卒業まで1Fの教室を約束してくれた為、親が一切付き添わずに学校生活を送ってきたが、6年生になるにあたり、校長が代わったとたん、教室を2Fにするので、親が1日付き添って欲しいと言われた。電動車イスを利用しているが、教室の階数が変わる時以外は一切付き添いが不必要なのに、校長が代わっただけで、サービスが後退するなど、信じられない。教育委員会に訴えたが、「親が付き添うのが当たり前」という趣旨を言われた。学習障害児には手厚いが、肢体不自由児には何の支援もない現状にとっても不満。(肢体不自由、10歳)
- ・肢体不自由の特別支援学校に通っています。そのため身体の不自由の度合いに応じてのクラス編成やグループ分けなどある程度は仕方ないと思いますが、身体の不自由の度合いと認知・認識力(学力)は必ずしも一致しません。ですので、そういう点もふまえて個別の支援を考えていただきたいと思います。不自由の度合いが強い子どもでも、内面的には外からで

- ははかりしれないほどの認知・認識力を持っていることがあります。現在の教育課程ではそれをとじこめてしまっていることが多くあります。大変残念でくやしいことです。(たとえば重度で寝たきりの子ども＝ただ息をしているだけのいきものとあつかわれることが多くありますが実際はそうではありません) ぜひとも教育課程から見直していただき、障がいのある子どもたちがすこしでもよりゆたかな人生を送れるようにと願っています。(肢体不自由、10歳)
- ・担任と、性格が合わず、学校に行きたくない。今の先生は、ぼくの学校に来る前は知的障害の特別支援学校にずっといて、肢体不自由の子どものことを全く知らない。脚が緊張してピンピンになってしまうのを“困る困る”と言う。だから今の先生は嫌いだ。(肢体不自由、10歳)
 - ・教育とは少し離れますが、放課後、学校内で、訓練や、放課後あずかりを、専門の人に来てもらってできないもののでしょうか？(肢体不自由、11歳)
 - ・子供の障害がさまざまなので、先生方が個々に対して理解を深める時間的余裕がない。人手が足りないというのも大きな理由の一つである。学年が上がるだけなのに、親はまた一からものすごいエネルギーを使って、理解してもらおう為の努力が強いられる。もっとべんきょうしてくれたらと本音はあるが、忙しそうで先生には言いづらい状況である。(肢体不自由、11歳)
 - ・肢体不自由の子供の通える学校は限られていて、マンツーマンの指導を受けるには、一番良い学校だからです。(肢体不自由、11歳)
 - ・特別に困っていることは今のところないが、学校が古いため、少し設備面が不便で暗い印しように有り。先生方がおぎなってくれて成り立っている部分もあります。(温度調整、清そうなどで) 授業面では個々に合わせて行ってくれて少しずつ伸びてきている部分も見受けられている。担任の先生が元気で明るく指導もメリハリがあると子供達も楽しく生活しながら学習できるのでと思うので、それはこれからも引き続きお願いしていきたい。子供のための学校ではあるがふつう校と違い親のかかわりが多い学校のため先生と親の関わりもよい関係を築けないと子供がかわいそうになる、親の悩みも話しやすい環境だとありがたい。(肢体不自由、11歳)
 - ・熱風邪でも学校に来る子がいて、うつることが怖い。相手はそれでも何とかのりきれる子が風邪すら、自分は命とりである。そんなとき、私の方が元気なのに学校を休む。(肢体不自由、11歳)
 - ・みんなと一緒に高校や大学に行きたい。・ぼくは今は介助の人にえんぴつをもってもらっているけど、中学に行ったらテストはどんなふうにするのか少し心配です。英語はどうやって書いたらいいか教えて下さい。(肢体不自由、12歳)
 - ・〇〇(通常学級・交流学級) たのしい。〇〇(特別支援学級) つまらない。〇〇さん(介助アシスタント) すき、やさしい。(肢体不自由、12歳)
 - ・ぼくは手と足が不自由で、自筆でノートをとることができません。いまはほとんど介助員に代筆をしてもらっています。しかし、算数のテストなど、代筆には適さないものもあります。本当は、パソコンが使えるので、パソコンで算数のノートをとったりテストを受けたいのです。でも、いいソフトもなく、困っています。誰かに助けてほしいです。(肢体不自由、12歳)
 - ・介助が必要な児童は支援学級に在籍しなければ介助がつかない。支援学級では一人一人の二

- ーズに合った教育支援が不十分であった。また支援学級の教員も専門性に欠ける人が多く見受けられた。(肢体不自由、12歳)
- ・特別支援学校となり障害の種類(?)範囲が広くなり、先生の専門性が失われる事がこわい。現在でも学年単位でなく、数学年(例えば、4、5、6年)の生徒の中で、必要とされる教育が似ている生徒で、縦割りとした授業が行われており成果を感じている。肢体不自由、知的障害…それぞれ程度があり動き、理解度…恐ろしく様々である。せめて学校ごとの専門生は失わないで欲しい。(肢体不自由、12歳)
 - ・特別支援学校の中学部でも、いわゆる教科担任制で授業が行われるのは納得がいかない。重度の子供の教育はある程度きまった担当の先生の一貫した指導も必要だと思うので教科担任制とはあいいれない…。そのギャップが子供達にマイナスになっていないか、ある程度、柔軟な対応ができるよう制度をかえるべきでは、(肢体不自由、12歳)
 - ・養護学校だからかクラス人数(4~5名) - 1名の教諭と一応手あつい人員配属の方だとは思いますが。肢体不自由児なので、その点はありがたいとは思いますが6年間の内丸1年クラス内の教諭が1人ないし2人代わらなかつた事は1度しかありませんでした。健常児でさえ環境になれるのは大変な事なのにましてや個々に障害がちがう子供達が特に敏感に感じる事だと思います。もうそれがなぜかあたり前のようになっているのはおかしいと思います。普通の小学校ではこれ程までに代ったという事は耳にした事はありません。(肢体不自由、12歳)
 - ・子供の事についてというより親の事(PTAに関する)ですが児童数が少ないのでおのずとPTAの役員(委員)をする事が多くなり、育児と家事(仕事)にとかなり、日々忙しいのに更に忙しくなり自分の時間があまり持てず負担になってます(肢体不自由、13歳)
 - ・過年度過齢児で養護学校の訪問学級中学部から高等部へ進級できて良かった。(肢体不自由、46歳)
 - ・特別支援教育制度になったのはいいが、介助員を生活支援と学習支援とに分けることに疑問を感じる。どこまでと区切りをつけるのではなく、本当に一人ひとりに合った支援をしてほしい。障害のある子もそうでない子も一緒に学ぶことに大きな意味があるのに、分けて介助員を減らして居ずらくなってくる気がする。これからの世の中は、それではいけないと思う。早いうちから対応していかないといろいろな事件や社会問題にもつながると思う。人権を大切にしてほしい。子どもに関わる学校側や、周囲にもっと障害について理解してほしい。そうでないと、本人や家族が辛いので。(視覚障害、5歳)
 - ・家から遠いので通学が大変です。お母さんが仕事をやめて送り迎えをしてくれています。週に2日寄宿舎に泊まっています。お友達が少なくてさびしいです。(視覚障害、7歳)
 - ・学校が古くてバリアフリーが中途半端。先生がしっかりサポートしてくれないと危ない事もある。(視覚障害、7歳)
 - ・県を中心より外れた地域に居住していると、居住県内の特別支援学校へ通学すること(させること)は、現実問題としてなかなか容易ではないことを、就学に際して思い知らされた気がします。居住地から、通学することが可能な学校へのスムーズな就学ができるようになることを切望します。・障害児の学童についての体制が自治体により差があり、親の就労が条件であるところと必ずしも、そうでないところ、障害児の学童そのものがないところ…とあり、自ら声を上げねば、とも考えますが、個人の力ではなかなか難しいことも事実です。放課後の居場所、人とつながれる場所が欲しいと強く思います。(視覚障害、8歳)

- ・やる前から、できないと決めつけずに、とりあえずやってほしい。どんな子供にも、希望が持てる学校にしてほしい。「今は、先生が言うから、仕方ない」と、がまんしているかんじ。もっと、親も、本人も、夢にむかってやっていける学校になってほしい。(視覚障害、10歳)
- ・給食にラーメンが出たらいいな・学校が近くだったらいいな《7:12に家を出て(車)スクールの停留所に行く》家7:12———駅8:00———学校8:25(視覚障害、10歳)
- ・盲学校に通い目だけでなく知的、肢体不自由と様々な障害を持っています。全盲の子と知的の子がいっしょに生活するのはとてもむずかしいと思います。ですが現実には様々な障害を持っている子たちが多くなっている中で、親が望んでいるのは、色々な障害に対応できる先生の確保があればとてもありがたいと思い今後に期待したいです。例えば…盲学校に肢体不自由専門(リハビリPT、OT)の先生が週1、2回と訪問するとか…(視覚障害、10歳)
- ・スクールバスが、あるのは嬉しくありがたいのですが少しの時間でもゆう通がきかず、生徒への思いやりがない。(視覚障害、11歳)
- ・もっと運動して欲しい。先生が作ってくれるおもちゃがおもしろかった。トイレで持つところが(手すり)少ない。リトミックやサーチ(物探しゲーム)などをしてたのしかった。(視覚障害、11歳)
- ・専門性の高い教員の配置をお願いしたい(視覚障害、11歳)
- ・特にありません(視覚障害、11歳)
- ・まわりの人と相性が悪かったりして学校にいることを苦しく思うことがあります。でも、他の学校に行く勇気がありません。また、「盲学校」というフレーズだけで全盲の人ばかりだと偏見されてしまうのも辛いです。障害者というだけで就職に影響する例も知っているのも、不安です。なんとかならないでしょうか？(視覚障害、12歳)
- ・卒業を前にした現在、熱心な先生方と理解ある友人に囲まれて、盲学校だけだと体験できない、大人数で作る行事やたくさんの様々な人との出会いが、子どもを大きく成長させてくれたと、心から感謝している。教科書の点訳保障もされていて、ボランティアや保護者の負担は大きく減った。次は、副教材類(ドリル・テストなど)が点訳保障されているようになれば、これからたくさんの視覚障がい児が、同様の成長に必要な得難い体験ができると思う。(視覚障害、12歳)
- ・学校に勤めている。*これ以上の項目に私は該当しません。(盲学校の教員である)(視覚障害、39歳)
- ・私は自分の病気のことは以前より知っていましたがここ数年で病状が急に悪化し先々が不安です。今のあん摩、マッサージを身に付けていくことが第2の人生と信じています。あと一年で国家試験ですので今はただただその目標をクリアすることでいっぱいです。今の学校と知り合わなかったら今ごろは“どうして居るのか”視力は日々暗くなっていく中人生は少しづつ明るさがみえてきたようです。(視覚障害、50歳)
- ・2才位から教育相談として通っていた学校なので、何の不安もなく今の学校に通う事ができています。(重複障害、7歳)
- ・支援学級やコーディネーターの先生は、とても理解のある方が多いが、他の担任になる先生方は、まだ障害について理解が薄いと言うか…勉強不足。(重複障害、7歳)
- ・自主通学しているが、車からの乗せ降ろしの場所が十分確保されていない。また雨の日など屋根がないので大変困っている。(重複障害、7歳)

- ・記入してみて、わかっているつもりでもよくわかっていないことに様々気づきました。しかし今は手一杯です…。普通級に入学して2年目。教室にいる長い時間をあとひとくふうして、より良い時間にしたい！！そのために色々な方に相談している。しかし結局は、本人の選択。イヤイヤやることは身に付かない。しかし、イヤイヤでも少しずつやらせる…このくりかえし。人生はやり直しきかない。良き相談相手、良き支援（行政に）を強く望む。（重複障害、8歳）
- ・もっと、外に出たいのではないかと思います。校外学習が少なすぎます。また、一人で休み時間に外に遊びに行くことも、できないのですから、校外学習まではいかなくても、太陽の光をあびて、風を感じて、外の空気を沢山すいたいと思います。缶詰状態では、丈夫にはなりません（重複障害、8歳）
- ・医療的ケアの必要な子供の受け入れ体制が各学校で偏りすぎている。看護師が配置してあるのなら、親が希望すればもっと積極的に受け入れて欲しい。（看護師の質も高めて養護教諭。正規雇用にし責任ある支援をして欲しい。技術と知識の研修を受けた教員には、もっと色々な医療ケアを実施できるようにして欲しい。学校が居住地だけで決められずに、重度で緊急に医療が必要な子供の場合は病院の近くの学校に通学できるようにして欲しい。通学バスには、教諭や看護師が添乗して欲しい。教員のやる気と質を高める研修をして欲しい（重複障害、8歳）
- ・学校の前は、知的障害児通園施設へ通ってましたが、素晴らしい先生方ばかりで、どんな重度の子にも園では、オムツではなくパンツで過ごさせてくれ、トイレには、時間排泄で連れて行ってくれる等、色々な工夫で自立に向けた指導をしてきていました。ところが、学校は、園の先生程の知識が薄く感じます。（障害児に対する）学校は、学校で、園とは違う良さもあるのですが、ほとんど学校ではオムツで、先生からも「オムツが足りませんので持たせて下さい」と、園では考えられない事を要求されます。もっと、専門性のある先生がいたらいいのにナ～と思う事があります。（重複障害、8歳）
- ・就学前までに…学習面を発達センターなので指導を受けてきました。速度は遅くても“国語、算数”といった教科を意識させて学ばせたいと思っていました。しかし、はなからそのようなカリキュラムのclassではない…ということで学習らしいものはありません。課題学習といってもスイッチおしやボールをさわらせることなどです…。このようなケースは私のところだけではないと思います。楽しく学校生活をおくっているようですけどやはり学習科目も希望すれば柔軟に対応してほしいと思います。（重複障害、8歳）
- ・統合教育とうたっているわりには、中身は何も変わっていない。障害児でも健常児と一緒に生活できる世の中にもっとしてほしい。進路選択について親の意見を最大限尊重してほしい。学校が障害児について理解を深めてほしい。（研修の意味なし）（重複障害、8歳）
- ・特別支援学校に在籍している生徒がストレスパニック等を受けた時他害する子が多いのに子供が恐怖心を抱き（実際にケガをして帰宅が低学年時何度もあり）入学3日目から毎日登校を嫌がり、送り出すのに大変でした。2年目には他害する子を見て学んだ何もしない子も又、する子になり、外出する時目をつぶる様になりました。3年目でやっと先生から離れて歩いても怖くない様になり現在は何とか嫌らず登校になりました。何の為の学校！保育園や幼稚園から入学するとそういう子が存在する事を知る術がなく入った後に苦労します。出来たらあまり良い所だけ見せず（手を全く出さない子にとって）入学前に教えて欲しかったです。

- そして他害する子のお母さん達も子供が他害するのは仕方がないとか考えず少しづつしない様努力して欲しい事をもっと学校側から促して欲しい。(重複障害、9歳)
- ・スモールステップでの学習で、本人に負担もなく楽しく学習しているが、さらに進歩させる為には、厳しさも必要、そのバランスが難しい。子供の成長に合わせた段階の対応を少し先を見て進めてほしい。(重複障害、10歳)
 - ・現在の学校について、給食がないため、お弁当をもたせて登校させています。摂食について、理解があるのなら重症児の子達にとって、食事がどれほど重要かもっと考えて欲しいと思います。食育といわれていますが、この子達は見捨てられていて、非常に不満です。給食の充実を切に希望します。今までに苦しんだのは、生後の経過ですぐに療育を考えてくれる体勢がないこと、また、途中、発作により重症化した時に、役所がまったく対応してくれないことでした。手続きに1ヵ月以上かかりました。今の教育支援は、軽～中度の知的障害児や発達障害児には、有効かもしれませんが、専門性を必要とする聴覚障害や重症児は追いやられていると思います。もっときめ細かい配慮が必要であると思います。重症児は、ほとんど身動きがとれないため、全介助を必要とし、医療ケアの比重も高いです。(重複障害、10歳)
 - ・学校に児童・生徒が多く教室が少ない。その為音楽室などをつぶして教室にしている。家庭科室の利用も、順番待ちで充分に使えていない。・クラスの子どもの姿もそれぞれ全く違っている。もっと、細やかに、個人に合わせた課題に取り組めるように授業してほしい。(重複障害、11歳)
 - ・人間あつかいされない・分離教育が根強い・行事の練習は最初から参加させてくれない、親が申し出をしなければ参加させてくれない。「迷惑かけるといけない!」と必ず言われる・交流も親が言うまでさせてくれない、言っても実行するまで4年もかかった(週1日の給食)・親の付き添いは当然だと思っている・特別支援学級の先生は障害の知識がなく、普通学級で問題を起こした先生ばかり…障害児や親に対して失礼だと思う(重複障害、11歳)
 - ・教室がせまい。(重複障害、11歳)
 - ・現在の個別支援級については軽度のお子さんが毎年多くなっているように思われます。早期療育という早い段階での障害認定は親の認知や教育においては良いと思いますが、その受け皿が足りない状況の中で先生の人数の不足…それによって志しの低さが感じられます。一番の成長段階で子供は学校生活が大半です。その中で色々な事を学んで欲しいと思っています。人手不足という理由で先生達もつかれてスキルアップの意志もなくなったり、本来特別に支援を受けなければならない子供が受けられていないと思います。早期認定をするならばその10年後の状況も見据えておこなっていただきたいものです。(重複障害、11歳)
 - ・今のところ、担任の先生にはとても良く熱心に指導して頂いているので、先生についての不満はあまり無いのですが、学校側には少し不満があります。それは、給食面についてなのですが、食事形態が“かたい”という事。我子は“かむ”という行為が上手くできず、かたく調理した食事をきざんで(細刻み)食べる。という方法をとっていますが摂食指導では、調理は、やわらかくして(歯ぐきでつぶせる程度)食べさせてあげる様に。と言われていて家では、その通りにしていますが、学校では、細刻みで丸飲み状態なので、給食でもやわらか煮にしてもらいたいと要望しても「出来ない、無理」という返事しか返ってこないのもう少し、真剣に考えてもらいたいと思います。(重複障害、11歳)
 - ・なし(重複障害、12歳)

- ・寄宿舎を利用していますが、体調により週4日登下校で母が送迎しております。舎を利用すると通学バスが利用できなくなる事。(重複障害、12歳)
- ・多種多様な障害が同じ場で学ぶことになると良い点もあるのですが心配のほうが多いです。逃げることも防御姿勢さえとれない子供と、じっとしていることが困難な子供と一緒にいるしかなく危険が高まらないかと心配しています。リスク回避に十分な教員の十分な配置と教育をお願いします。(重複障害、12歳)
- ・都会では児童数に対して先生の数が少ないため、あまりかかわってもらえず、1日中ボーっとしている事が多い。田舎の学校では児童対先生が1対1であり、かかわりが多く、学校を楽しむことができていた。しかし、重複障害に詳しい先生はおらず、知的な面では十分に指導を受ける事ができなかった。重複障害の専門家の先生を担任としてつけて欲しい。(重複障害、12歳)
- ・小2より地域の学校普通学級に受け入れてもらえ大きく成長生きる力をもらいながら様々な経験たくさんの友達ができ充実した生活を送りました。子ども達は互いに支えあい一人の子どもと同じ仲間として過ごしました。(重複障害、20歳)
- ・小中は、地域の普通校に通っていた。そのあと普通高校を受験した。定員割としていたのに不合格になった。すごくショックをうけた。悲しかった。障害があつて、自分でテストに記入することが全くできず、なれないパソコンで回答したが、点数がとれなかった。でも定員割としていたから、大丈夫かもと期待していた。友だちとついでに高校に行きたかった。そのあと養護学校の高等部に入学した。何人かの友だちが高校を中退した。私が、行きたくても行けなかったのに。だれでも高校に行けるようになってほしい。今は、大学の科目等履修生として週1日大学に行っているが、なかなか友だちができない。内容は自分にとって意味のあるものだし、大学生活を感じられていいと思っている。私は呼吸器を使っていて、吸引やチューブ栄養など医りよ的ケアが必要なため、小中高と親のつきそいが必要だった。いつも親が学校にいているのはイヤだったし、親もかわいそうだった。同じような子が、今も親のつきそいを求められている。教師がケアできるようになってほしい。(重複障害、21歳)
- ・近くに、いさせたことが、家の人の気休めになると思うが、本人(〇〇)にしては、がんばったつもりであっても、がんばったうちには、入らなかった。何のため※だか、と、今でも思う。家の人を、支えているものにすぎなかったなあ。だって、家の人がかんばっているんでしょね。まわりは、〇〇にたいしては、甘えてる！怠けるんじゃないの？と、いわれた。それは、しかたがないと思う。※まわりが、「さあ」って言うのが、おち。(重複障害、30歳)
- ・就学指導委員会の発表が2月中旬、まだどのように決定したか不透明(重複障害、40歳)
- ・トイレが和式が多いので、もう少しだけ洋式にかえてほしいです。(重複障害、48歳)
- ・普通校、普通学級に行ったが、学業について行けないことがあった。今なら色々相談したと思う。(精神障害、43歳)
- ・特別支援教育が始まったことによって、知的障害児は通常学級にいるべきではないと教育委員会の考えが固ってしまった。支援をしてほしければ支援級・支援学校に行くべきということで、インクルージョン教育とは逆行している。教師も、その考えに影響され、他の子が同じことをしていても怒らないのに障害児がすると特別な危険なことになり、毎日怒られてばかり。子どもたちも先生を見て、必要ないことでも障害児を怒ったり、いじめたりで本人も

夜中に「ヤダーやめてー」と泣いて起きてしまう日々が続いている。学校においてあたりまえと一緒に過ごせることが共生社会とつながっていくことにまちがいはないと思っているので、知的障害児も含めどんな障害の子でも同じ教室で過ごすことがあたりまえになるよう国から市区町村あてに、改めて確認し、改善していただきたいと切に願っております。(知的障害、7歳)

- ・困っていることはありません。いい先生や友達に恵まれたので、このまま変わらずすごすことができれば幸せです。(知的障害、8歳)
- ・施設の老朽化が進んでいて大地震などが起きた場合の安全性に不安があります。実際に、校舎の壁にヒビ割れがある…等と聞くととても心配です。特別支援学校に通うお子さんの人数が年々増えていて、教室の不足が著しく、十分な教育・指導ができる環境にあるとは言えないと思います。まだ小学校の低学年なので在学期間は長くないのですが今のところ担任の先生に恵まれて、充実した学校生活を送っています。(知的障害、8歳)
- ・障害児一人一人のニーズ（特に問題点解決のため）のために医療・学校・福祉の連携が紙の上だけでなくプロジェクトチームとしてしっかり機能して欲しい(知的障害、8歳)
- ・現在小3で、1年の途中から学習支援ボランティアを個人的に頼んで授業を受けています。(それまでは母親が登校から下校まで強制的に付き添いをさせられた) ボラさんがいる為担任は、うちの子に気を配らなくてもいいと思っているようで、誰も付き添いのない時間は、あまり授業に参加していない様です。1年2年の時は、「困るからお母さん来て」とか「校外学習だから、来るのが当然！」と言われていたので少し理想に近づいた感じですが、無関心（に見えてしまう…）も考えものだとつい勝手ながら思っています。(母代筆)(知的障害、9歳)
- ・授業や校外学習における親の付き添いを、学校から強要されました。子供の為にも自立をさまたげ、教員も親任せになり、学校という場ではなくなりました。・校外での行事の参加（学年児童全員参加）について、「障害児の参加した例が無い」などと言われ、参加の意思が親にあるか聞かれた。健常児の親には、参加の意思確認は行われていません。教育を受ける権利を奪われそうになりました。・クラスに障害児が居ても教員が対応出来る人員配置や、教員の障害への理解を深めることで今、学校で起きている様々な問題がクリアされると思っています(知的障害、9歳)
- ・特別支援教育が発達障害児のためのものであるという教育現場の現状を改善してほしい。障害の種類によって、支援を分けることをやめてほしい。・就学指導委員会による「就学相談」という名の「障害児を通常学級に入れられないためのシステム」を廃止してほしい。ここで出された判定が、就学後の対応にずっと影響を受け続けること（具体的には、支援級判定で通常級に就学した場合に、通級をことわられる、支援級の転籍を学校からすすめられるなど）が、支援をさまたげる要因になっているから。・学級担当の先生によって、障害児だけではなく全ての子どもに対する理解ある対応に差が大きいので、先生の中で指導法や接し方についての情報交換をスムーズにできるようにしてほしい。先生どうし、固定観念があったり、自分の領域にふみこまないなど、同じ学校にせつかく良い先生がいてもあまり相談したり助言をうけたりしていなくて残念。さらに、理解ある先生がいても、教育委員会から、それを良しとしないような指示を出すことなどもつてのほか、と思う。障害児をひとりの子どもとして普通に見ることのできる教育現場を望みます。(知的障害、9歳)